

中代廿考

阿部利雄

## 亡妻の遺稿

### 長男初産の思い出

大正十二年二月二十七日東京信濃町慶応病院で出生、二月十一日予定日ながら八日に札幌の御両親及び利明さんと御一緒に奈良の天理教本山へいらつしやる途中お立ち寄りになった。主人が利明さんが結核であるため新生児に感染しては大変御心配になり里の父に相談の上一日だけ御一緒に九日に入院した。なかなか生れないので里の母と毎日明治神宮の外苑に散歩に出かける。外苑の入口に十銭で三ケのゆで玉子を買ひ、二人で食べて帰るのが常であった。或る日留守の病室へ来て昼寝していた夫の処へ回診にいらつした下山先生、産婦と間違え主人も先生も共に腰を抜かして驚いたという事である。二十五日になつても出産の気配なく一たん家に帰った処、二十六日に何か下りものがするので早速病院に帰る。内診すると病室に來られたがいやだと云つたところ診察室に來いと言われ、母上に付いて來て貰つた。初めての内診終つてから母の顔を見た時付いて來て貰わなかつた方がよかつたと恥かしくて仕方なかつた。夕方主人見舞に來て九時半



玄関迄見送りに行く時、便所に行くときと出血していた。母は阿部さんに明日もう生れてますよと言つて別れた。二時頃相当の痛みあり看護婦に来て貰う。三時過ぎ産室へ運ばれる。母が大きな声で騒いだらお母さん恥かしいから帰るからと言つていらつしたので痛いのを辛棒し、何時になつたら窓硝子の棧が見えなくなるのかと窓ばかり見ているうちにギヤーとの声、お産婆さんの大谷章子さんが坊ちゃんですよと両掌に乗せて見せて下さる。母はおとよ、よかつたなあ指も五本あるしよい子やぞと知らせて下さる。まあ主人の鼻にそっくりと驚く。後始末が終つて母上が智を抱きその後から車に乗せられ病室に帰る。フト行き先きを見ると母上がとても嬉しそうに歩いていらつしやる。その時の私の気持はまるで桃太郎さんが鬼が島から宝物を車につんで犬猿雉をお供にがいせんした時の様な気分であつた。入院中岡村の姉上、札幌から帰川およう叔母上に付添われ、京都の中村産婦人科病院で後屈の手術をしたとか手紙を御らんになつて、おどく／＼してしまつたとその後は何もおつしやらなかつた。

主人は会社出勤前、病院に寄つて下さつた。ノックと共に母上はおとよ女の子やといいなさいとおつしやつて置きながら、主人の顔を見るなり男の子どしたと早速おしめをとり換えシンボルを示したとたんおしつこしてヤイ／＼のさわぎ。早速川並の父上へ

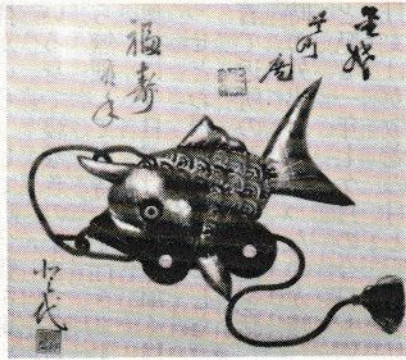
「ボンチウマレタ」と打電、翌二十八日父上御東上、お見舞下さり私のベットの処へ腰をかけられた。母上はハイお爺ちゃんボンで御座いますと膝の上に乗せようとなされたら父上は後へ手をやって抱こうとなさらず、母上はそれがとても不満らしかった。結局初めてお爺ちゃんになったのがテレたのらしい。主人が名付けをお願いしたら三人産む積りか六人の積りかと言われ、三人と云ったら、智仁勇、六人なら礼智信……と付けよとおっしゃって下さったので三人の積りで智をとった。母上は阿部さんの後を継がせるのに智雄と届けて欲しいと頼んだが届けて帰ってから智の一字としたと聞いて母上と共にガツカリした。(入院中)母上は初めて孫を抱き(米三は居たけれど)嬉しくてたまらず祖母の処へ手紙を認めた時婆よりと書いてあったので帰郷してからとても祖母上の御機嫌が悪るかったと聞く。母上はせめて三週間病院に置いて欲しいとおっしゃったが二週間目の三月十一日退院した。

主人はお乳が出る様にと毎日ごぼうと鯉のおみおつけを婆やに作って貰っては運んで下さった。おかげでお乳はどつきり出て肩迄張り、熱も八度余り出たが直ぐよくなった。そんな或る時大谷さんが高木子爵さんの赤ちゃんにお乳を呉れと飲ませていたら急にはだかにして逆さにして赤ちゃんのお尻をピチャ／＼とたたかれギヤーと泣いたので、よ



かったと大急ぎで着物を着せて連れて行った。その後も度々お乳を飲ませに来たが付添いの品の良いお婆さんの話によると三笠宮さんのお付きの方の子供さんとかで、着せていらつしやる白の紋羽二重の抱きばんでんや着物は総べて宮様のお下りだとか白づくめであった。後に聞くところによると此の方のお妹さんが高松宮さんの妃殿下におなりになったのである。三十五日目二月二日杉並区の高円寺の原っぱにあるお宮さんへ主人と二人だけで神詣をした。その頃喜蔵さんのお嫁さんに京都の辻村医師の娘さんが決つてメ酒を納めてあつたが娘さんの姉宇都宮赤十字看護婦人科の医者が就職もしてない金持の処へ嫁がせるとは金で買われる様だから自分は反対だ。押して嫁がせるなら絶交すると云うのでと辻村さんがメ酒持つて断わりに来られたとか、そんなことがあつて氣象台長の岡田先生から伊藤という名字で紫と云うペンネームの人が嘉悦先生の女子商業高等科におるからとの事、喜蔵さんに頼まれて聞き合せに行った。玄関先で梅原先生にその事を聞いた時本人が後に立って居たので梅原先生驚き座敷に上げられ事なく済んだが本人はひどいビッコだった。喜蔵さん曰く換え玉だったとややしばらくして裏の借家にいらいした富田さんとおつしやる方が兵庫県で校長先生だった大石先生のお嬢さんをと云う事で九段茶寮で岡田御夫妻、大石御両親、本人、塚本両親、阿部両人、喜蔵さんとで

お見合いした。その夜喜蔵さんが「おとよどうやった」



押絵（とよ作）

絶筆

今月は敬老の月、夫八十二才私は七十二才今迄元気一杯病氣一つしなかったのに昨年二月孫の流感を染り咳も熱も出て老人二人切りの生活でとても困りました。その頃隣組の役員の若い奥様がいらっして町会費を集める様にと名簿を持っていらっしたので現在病氣中にて寝ている身で寝巻きのままで応対している事も話して雪もひどく降っているし廻覧板位なら無理しても持って行きますが町内一軒一軒となるとなかなか病人では無理です。隣の奥様に今日だけ代って頂く様に再三お願いして下さいと頼みましたが返事もなさらずせせとお帰りになりました。私は人間関係になさけなくなり大急ぎ寝巻の上にコートを着て近所のお宅へ理由を話してお願いましたところ心よく聞いて下さいました。その時の外出が悪かったのか咳、熱も高くなり一時老夫婦は困りました。以来咳のためずっと臥せ一年七ヶ月の今日も猶医者薬を飲み続け果ては肺気腫とまで云われました。九月丈けが敬老の月と云わず私達の様に老夫婦だけの家には十二月の夜警の拍子叩きとか冬の町会費集めとかは出来得る限り暖い気候のよい時に代って頂きたいし、又病氣の折にはよくなる迄次ぎの方にでも代って頂く様にお願ひ致したいのです。私達は決して世の善意な方々に年寄りだからと甘えず元気な時には世の為め人の為めに張り切つてやっています。これが私達の年寄の生甲斐と楽しんで実行しています。皆様



どうか九月だけを敬老の月と思わず困った時は助けて下さいお願い致します。

### 病中雑詠

- 何時の間に重ね来しか七十三背腰も曲りしわも深まり
- 新年の年を迎えて雑煮餅二つ子の孫に花歌留多敗け遊びに
- 雑煮餅のどつまらせつ孫と婆晴着姿を喜び合いて見る
- 金婚の年も過ぎけり爺と婆いたわり合いつ新玉を迎えて
- 幼な孫相手と競ふ花かるた爺婆敗けて孫は威張りぬ
- 晴着着て二た親つきて爺婆に舌のまわらぬ祝詞述べゆく
- 晴着姿で両親に抱かれて挨拶代りにケラケラと笑おり
- ほのぼのと心も身体も温る婿の割り呉れし薪にあたりて
- 我が家には新たに芽生えし二人孫目出度し／＼の年を迎えて
- ちなちなと晴着姿で爺と孫日がな砂と遊びて楽しみており
- 本を手に椅子を持ち出し孫の守
- 日がな砂遊びして楽しみており



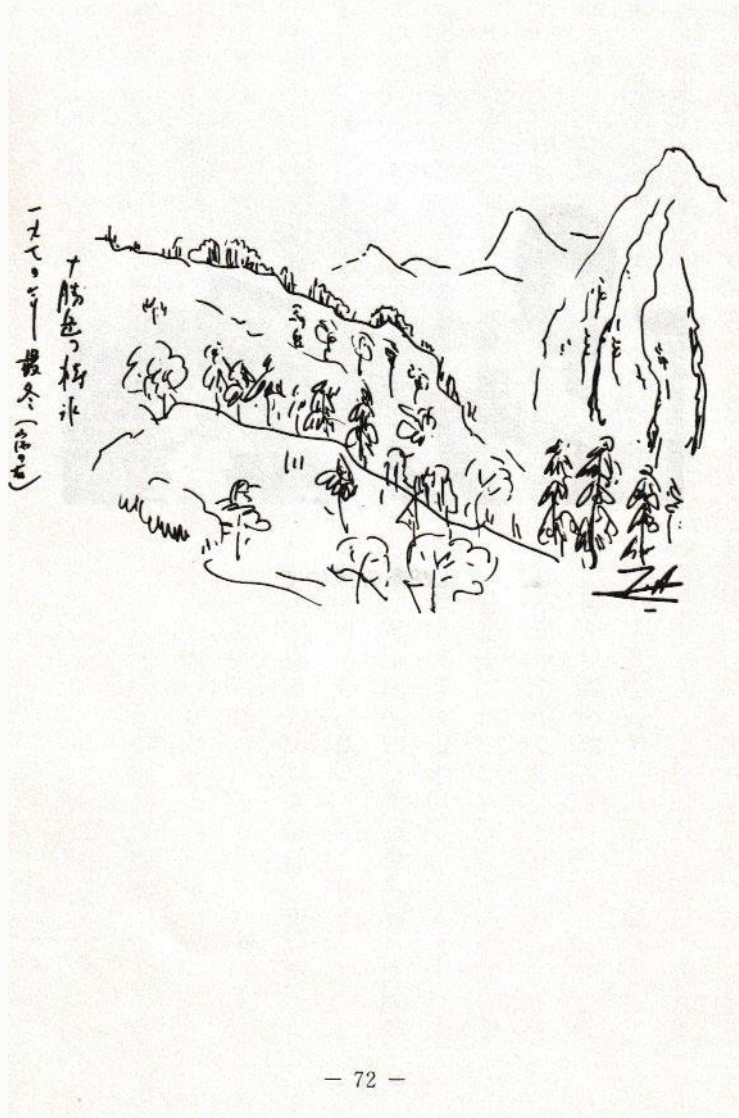
- 寒きをも雨も忘れて砂遊び何が楽しか爺と孫
  - 愛し孫祖母慰めんと歌と詩を便りの端に書き添えてあり
  - わくらの葉の隙きよりもるる月明り臥床にもだえ一夜過ごせり
  - 夜もすがら走り続けてはらからの声吹き込みて母を見舞いぬ
  - 名にしおふ伊賀の里の日野菜漬け姉に送られおろがみて頂く
  - 三つ子が祖母を見舞いて後ろ手を開きて背負ふ真似して
  - なつかしや父母の御姿おろがみぬ呼べど答えず消えてゆくなり
  - 奈良の都その昔みやび尽して都人の遊びましけん竜田川原の紅葉葉今も匂ふ血潮の色に残る片身は今も朽ちせぬ今かくと君をまいらむその紅葉
- さし洩る月に友思い伏床並べて夢結ぶ若き思い出寝返りのいびきは涼し虫の声

絶句



北28条の原にて





## 豊の遺言状

敬老の日私は今病床で何とも云えない気持ちで泣いています。戦前戦中戦後にかけて七人の子を育て、姑を疎開先で送り終戦後夫の本籍地北海道帰り病弱の長男を抱え、次男は干拓田を貰って百姓させ、長女、三男、四男、五男と大学院を卒えさせました。その間私は古軍服の改造縫製をしたり、くつ下を売ったり、造花や縫ぐるみ又は花造りして問屋に売りに行ったりしましたがその頃大学二人、高校一人、中学一人、小学一人の家庭では夫の収入ではまかない切れず毎月公益質屋に世話になりました。ようやくこれ等の子供は成長し、今では家庭も持ち気楽になったので夫の収入の他に幾等年をとつても子供には迷惑かけたくないと押絵を習い、小使いを作る気になりました。夫の恩給も僅かながら入りますので少しづつ貯えて来ました。今年は何とか主人亡き後で困らない様に上下一軒づつの借家を建てたいと娘に相談したところ不足分は私が出すから建てなさいと云って呉れ、七月二十五日にかかる積りしていました処、十三日頃より疲れがひどく診て貰ったところ肺炎だから即日入院の宣告を受けました。七月は八日間で一万八千円、八月は七万一千円、折角貯めた金はこうやって毎月毎日減って行きます。もう二度と



借家なんて建ちません。それに引き換え私の隣に寝ている小母さんは医療も只、その上お小使い迄貰っているとか、今一人の知人は長男が大きな会社の重役、末息子の処に籍を移して医療費も只お小使いも貰っています。夫は八十二才で収入はあります。でもそれだけに若くて遊んでいる方よりずっと苦労は多いと思います。又収入が多いだけに顔の交際も相当出さなければなりません。現在医療費無料とかお小使いの貰える方が果して我々以上に御苦勞をなさったでしょうが、中には何の苦勞もなく映画、パチンコ、旅行等好き放題遊んで暮した人もあると思います。東京は全老人医療費無料と聞いています。今迄一万の貯金も出来なかった私の寅の子を使はないで安心して療養の出来る様な市政を板垣市長にお願いして下さい。月々減って行く通帖を見るのがつらいです。

### 夫に対する最後の遺筆

御主人様 九月二十九日朝 とよ

- 一、大正十年十二月二十五日父より履歴書と写真を出され結婚を進められる。
- 一、大正十一年一月二日東京同族会社より帰川新年の挨拶の時、父より嫌味を聞く。
- 一、喜蔵兄帰川中結婚を進められる。

- 一、岡村兄も帰川五日名古屋にて急行に乗り換え東上する。
- 一、七日お見合い、九段宅に集合塚本同族出入の魚荘にて見合い。市ヶ谷見付道車で送り帰宅（九段坂下の家）
- 一、台所にいた時、裏口から主人来る、此の日話を決定した。
- 一、二月十一日結納（川並にて受ける）とよ病氣
- 一、五月二日内祝い親戚一同祝膳に就き荷物改め
- 一、五月三日荷送り、大八車一台に四人出入りの者付き北川秀三先頭、塚本又左衛門、音頭門口にて酒樽の鏡抜き塚本定藏出発、音どう取りは又左衛門、村を一周して能登川に行く。
- 一、五月五日とよ出発母ととめ、とよの三人、能登川駅には淡海の先生や生徒殆ど全員見送る。能登川駅初まって以来の事でないか。万才で見送らる。車中にて着換え、とよ高島田。
- 一、五月七日主人中野の家を見る様進められたが、姉上自分の時しなかったからと大反対仕方なく九段宅にて会う。
- 一、五月十二日日比谷大神宮にて挙式、佐藤昌介先生及び南鷹次郎先生の奥様の御媒妁



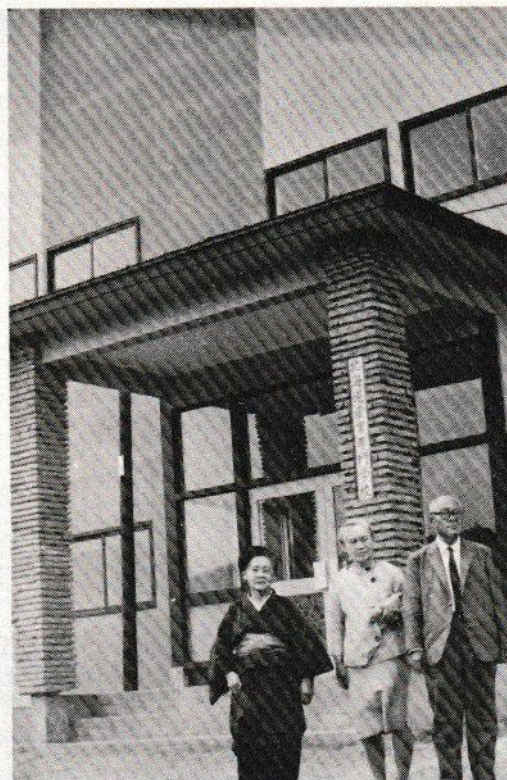
出席者両親、喜藏、とく、岡村、松居など稲田昌植、阿部両親、利躬兄、和久、ハ  
ル、宴会は築地の精養軒、戸津高知先生出席。

一、五月十三日御挨拶廻り。

一、主人にとよを渡す時、父は此の子は天真爛まんの子、よろしく御指導の程をとの事。  
一、以来五十一年間とよは只夫に仕えるの一心で今日迄誠心誠意で仕えて来た。



仲よくならんでハイパチリ  
ハイ ぱちり



北海道産業専門学校前にて



## 追憶

### 家財道具、家屋差押時代

人生には調子の良い時ばかり続くものではなく、不遇の時もある。調子の良い時は人が集まるが、具合が悪くなると人は寄りつかないのが世間の人情というものだ。弟子が政治で失敗した時妻は此の時が一番救いの手が必要とする時だ。ほって置いたら悪いことになる心配があるというので大学でも作ってその人間を更新させたら良いと云い出して、後へは引かぬ頑張り方だったので遂、妻の熱意に押し切られて再び大学に手を出す破目になった。もと／＼金のあつてやる仕事ではなし、無から有を生ずる哲学も二度三度恵まれるとは限らない。遂々大学発足後数年で乱発してあつた手形が不渡になつて家財道具を差押えられる破目に陥つた。その時の妻の態度は実に立派であつた。元々全財産をかけての仕事である以上、これは覚悟の上だと。内心は相当のショックであつたろうが、此の事件あつて以来、冀度胸が出たのか一言も愚痴は云わなかつた。むしろ無一物になつてサバ／＼した様な心境であつたらしい。そうこうするうちに発寒のパート

は悪い金貸に乗取られて終う破目になったが、丁度開発局の道路拡幅計画でアパートを移動しなければならぬことになって居ったので不法占有された建物を一夜のうちに破壊してしまつて開発局から移転費を受取る様な強行手段を取つた。この高利貸は山本と云つて他に悪辣な事件で詐欺罪で臭い飯を食つたような悪玉であつた。金を借りる時、間野君の紹介で金銭貸借契約を結んで金利天引きで契約を交わしたが、その時白紙委任状を出したのを悪用されてアパートはその後名義変更登記を行つて高利貸に乗取られて終つたのだつた。恐るべき悪玉であつた。

さて開発局から移転費用受取りの際、貸借の百万円の他に名義変更を勝手にした時の法務局登記費用の三万円程の費用まで私からもぎ取る悪辣な奴であつた。此の百万円は学校に貸した様な恰好になり、いまだに未解決となつて居る。それらの事件が二重三重に振りかかつて来た時代をよく耐えて来てくれた。無一物無尽蔵という仏教の教えを体得した聖者の風格が妻に見られた。

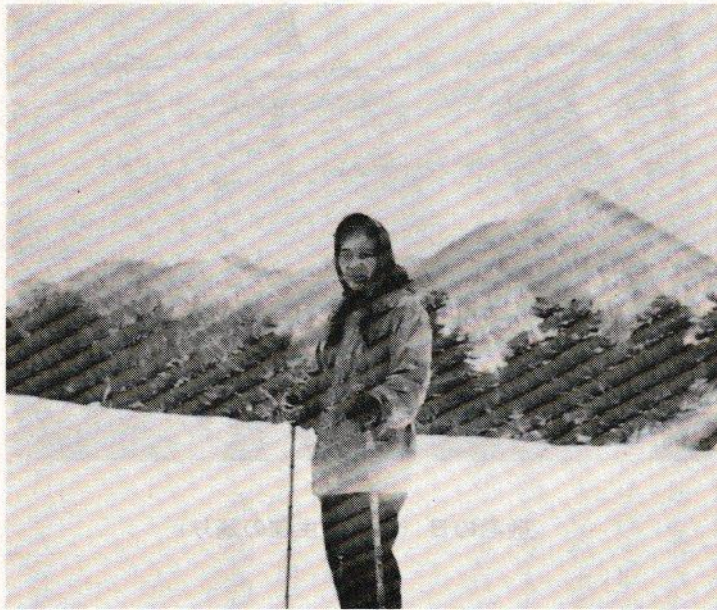
### 隣組の婦人部長時代

町内会総会の時、自分は町会長に推された。当日婦人部長を選任することになつてい



敬老の日（婦人会主催の踊り）





双子山にて (1956、1、29)

たが、なり手が現われなかったので私からお前引受けろと無理に押しつけて終った。その年、札幌神社祭礼の季節になったら持ち前のおてんばを発揮して、近所の子供等をかり集めて樽みこしを繰出すことが部会で決定したらしい。この婦人部長を応援する義務を感じたので自分ではでな浴衣を引張り出し、尻をはしよって帯にウチワを差し、手拭でほかぶりをしてリヤカーの後押しをやった。子供は樽みこしを車に積んで前を引いて行く。家内は東大演習林長高橋さんの妻君と一緒に子供等を指揮してワッショイく車を曳いて街を練り歩いた。奥様の話は祭りの山車を曳いて楽しむのは男ばかりで子供の時つまらなかった。今こそ、破目をはづして子供と一緒におみこしをかつげたといつてえらいハシヤギ様だった。大学々長夫妻、東大教授夫人の樽みこし渡御で賑わったものだった。

夏には花火大会、盆踊などを主催し活発な婦人部活動が続いたが、何時の間にか若手の婦人層に抵抗の兆が芽生えて居った。不愉快な出来事が続発する毎に家に帰って不満を訴えられるので家庭内に憂うつが充満して来た。遂々たまり兼ねて町会に辞任を申出た。町会長と婦人部長交替を提議した。任期中途で交替されて迷惑の様子だったが遂、実現させることになったが、妻は任期完了迄待つてくれと頼み込むが断乎として辞任し



て終った。この事が余程不服だったと見えてあとまで愚痴って居った。妻の楽しみを取り上げたという抗議であった。

### 掃除の手際良さ

妻自身の整理整頓慾は旺盛であった。その癖実行が兎角理想通りに参らぬ事が多かった様だ。規帖面さの反対にルーズな一面も時々のでかされることがあった。明日お客があるというその晩、実に神技と思えるぐらいの速さで押入に雑物を押込む。神技は愈々明日という瀬戸ぎりまで延期されその晩は殆ど徹夜で作業を終える。客待の日が過ぎると、またぞろ雑物の陳列となる。何か思い出して手掛けた仕事はいつも徹夜で完成する迄頑張る。人形作り、造花造りがお手のもので三昧境に入ったら、出来も良いが速い仕上げをする。この趣味は発病前までやって居た。作品は尾岱沼のユースホステル完成祝に十枚程上げたようだった。また友人知人に惜しみなく配って居った様だった。東京共立女学校時代の作品として残って居る刺繍で鷹の屏風は祖母さと子刀自の百人一首「ふくからに：むべ山風を嵐というらむ」の題字を刺繍されてある。造花などはボタン、其他独創で色々造って居った様だ。いづれも見事なものだ。





鷹の屏風  
(共立女子専門学校卒業作品)

## 洗濯物の山消える

倉敷に居った時分、子供はゴロ／＼生れるし長男はゼンソクで中央病院に入院したかと思ふと例の空気浄化装置のついた塔のある部屋に入れられると不思議に早く癒る。癒ったと思つて家へ帰るとまた発作を起こすという具合の年月が続いた。長女はジフテリーでこれまた入院するやら、とても家内一人では賄い切れなかつた時であつたらうか、冬の季節に風呂場一杯に次ぎ／＼に洗濯物がたまって山に積まれて数ヶ月経つた或る日兀然と風呂場が空になつて居た。多分屑屋に払つたのであろうが氣にとめずに奇麗になつたわいと思つたことがあつた。

労研の先生方が生理衛生の医者ばかりで脈の取れない医者ばかりなので、皆病氣すると街医者の三橋先生にかかつて居た。偶々長女がジフテリーになり手遅れとなつて血清を打つたので一時危篤状態になつた。その晩は労研の所謂脈取れぬ先生が大勢私宅に泊り込んで夜通し看病してくれて心強かつた。幸にして峠を越したものの予後シヨックで死ぬことがある戸、障子の開閉にも注意に注意して静かに暮した日が続いた。そのうちに足に麻痺が来て驚いて、マッサージの道具を大阪か岡山から取り寄せて、マッサージ

ジを行って何ヶ月後には完全に治ったことがあった。其後シヨウコウ熱の病で中央病院に入院した時は私が病院にて添寝して、子守唄を歌って寝かした日が相当つづいたこともあった。こんな事が重なって洗濯物の山を築く結果になったんだろうと思う。

### 鼓笛バンド創始

町内会婦人部長時代に少年鼓笛バンドを作ろうと云い出し、熱の入れ様は超人的となつた。市会議員、工場主、資産家を説得し、拾五六万円の資金を集めた。早速、全音会社に交渉し、大中小のたいこ、アコーデオン、笛、シンバルなど必要な道具、楽器を買い集め、自分も笛の吹き方をけいこし私は太鼓のたたき方、特に小太鼓の打ち方をけいこし、夫婦で子供を集め練習もした。丁度東京の全音会社の横山尹孝さんが専門指導員として全道の小学校を廻って指導された機会に町内の子供のバンドの指導を頼み、僅かの期間に蛍の光をマスターし、小学校の卒業式に飛入演奏して大へんな喝采を博し、バンドの子供が増える一方であつた。全道鼓笛バンド大会が道庁正門を出発し、町々をねり歩いた時は他の苗穂小学校など正式のバンドには決して見劣りしない立派な成績をあげた。



其の後は町内派閥のいざこざが原因となって集めた楽器一式を校区になつてゐる白楊小学校に寄附して、正式に小学校鼓笛バンドに成長している。

### 生きびな様

三月節句に思いついて豊平当時よし子の遊び友達を寄せ集めお内裏様、二人官女、五人囃などの着物を即興的に作り上げ立派な生き内裏さんで節句の雛祭りをしたことがあつた。こんな芸当は中々素人には出来ぬことをヘッチャラで仕上げる腕は素晴らしいものがあつた。

### 造花講習会

外人相手に造花講習会を開いてくれと頼まれて進駐軍婦人を集めて造花（紙細工）の講習をしたことがある。その時、外国人の風習として台所を来客に見せる癖がある。水洗便所やら色々なところを見せられ感心して帰つて来た。当時豊平婦人会にはいつも造花の講習をして居つたのでその対外文化事業の一端を任かされたのだつた。

## 町内連合会集会所開設の時

第一―八分区町内連合会の集会所を作る議が起き八つの分区夫々建築費の内の市出资额のうめ合せの形で集会所を作ることが市の慣行となつて居つた。従つて建築費以外の諸設備費は町内会の負担である。これを節約する意味で滋賀県出身の札幌市に営業して居る商店に向つて緞帳を寄附させたり、茶器一式、やかん、灰皿の果て迄顔と才覚で集めた功績は立派であつた。

## 舞踊会での稽古

今でこそ老人ホームで舞踊の稽古が盛んな様だが、おとよの婦人部長時代は中々珍らしい試であつた。同志の婦人相かたらいお師匠さんの手ほどきを受け敬老会の出し物として喝采を博したものであつた。花笠音頭は特に上手であつた。

## 祭り、正月の得意な料理

手先の器用というか、アイデアが豊富と云おうか、玉子やじゃが芋で色々な人形など

作って食卓を賑やかし子供等の喜であった。

大学創始以来数年間の振出し手形額二億円という莫大な負債を積重ねて、授業料で決済して居ったが、最早や支払い切れる限度以上になって居たので、会計係は不渡手段に出るより外に途がないとあきらめて負債整理に踏切ったわけであった。高利貸からのジヤン／＼の催足で頸迄で取られる様な大騒になった。

或る晩、私のところに或る理事から電話で直ぐ薄野の高利貸事務所に来てくれという。私単独で乗込もうとしたら、妻は爺さん一人では心細い、自分も付添って行くとして引下らない。遂々二人で高利貸の事務所に乗込んだ。行って見るとズラーツと数人待ちかまえて居た。その中の大將格の男は薄野界限で有名な高利貸で、鉄砲を打って人を傷つけたことのある前科の男だそうだ。行って我々二人が座に着いて、此の度の不始末を幾重にもおわびする。責任は十分感じて居るので何とか此の場はおだやかに願ひ度いと、誠意を以て話したところ、打って変った態度となりこれが本当の教育者だと却ってほめられて、何だか変な気持になった。其の時桜井君から電話があり、「先生とんでもないところへ行ったものだ。軟禁されるから直ぐ石川君と一緒に身柄貰い下げに行くから待っていてくれ」という。どうもおおかしいと思つて居たが折角の電話なので待つて居ると、



来た。今追話しの相手を桜井として居ったが埒あかぬので理事長を呼んだが話はわかった、帰って宜ろしいということで一同そこを引下がった。桜井の口から高利貸の一統の経歴を聞かされ無事解放されたことを喜こんだ次第であった。

其後三十数名の高利貸連中との会合の時も先生は御老体だから帰ってくれと言われ何時も特別な待遇を受けて申沢なく感謝したわけだった。

昭和四十六年正月夫婦合作の年賀状

婆と二人で八十年

も一つおまけに金婚冠婚

棗齊

七福の神もみますやお、したてし

こまつひめまつ色ことよき

有年

おまけの文字



子供への賀状

## ロシア五十年の今昔

「大平洋浪高し」……という本が日本のベストセラーになっていた秋深い夕方、河辺寅四郎と二人でリガの下宿の二階でマギーで味つけした牛鍋を突つきながら。

定一 大体考えて見るが良い、日本と米国が太平洋のあのだだっ広い海をどうやって攻めて行こうとするんだよ。米国の海岸に着く前に日本の軍隊が見つかってやっつけられるでないか。よしんば太平洋を渡りおおせたとしても上陸作戦はどうするつもりなんだろうか。海軍の奴等は兵学校時代に練習艦に乗って外国を一廻りしているんだから、外国の事情にも通じて居るだろう。従って米国の兵力、国の政治面についても詳しい筈だ。寅一 いや違う米国の民族は雑多な移民の寄せ集まりだけに国論統一は困難で、日本の様に同一民族国家と違って、いざ戦争という時には一億一心となって国難に殉ずるなんてことは考えられはせぬよ。

定男はS社の留学生としてソ連の隣り国ラトビアにしばし滞在し、入国の六ヶ敷しいソ連入りをあきらめソ連の国情をそこからのぞき見ようとして居た。当時トドミアンスキーが独乙に亡命して伯林に居ったのを幸に彼に国語の授業を受ける。かたわら、ソ連



の情報、特にボルシエビキの動きについて革命史的展望を独文で通報して貰っていたのだが、バルト三国の真中の国ラトビヤのリガへ来れば、もっとよくソ連の情報が手に入ると思ってたのであった。

リガのパンジョンに来て驚いたことに、宿のおかみさんの亭主は日露戦争でシベリヤで戦死した。然し日露戦争でロシアが敗けたおかげで我々は独立することが出来た。亭主はなくしたが自由が得られたので、むしろ日本に感謝するといって馬鹿に好意的待遇をしてくれた。町の人間は日本人と言っても河辺（陸軍のアタッシェ駐在官）と自分と他に領事書記官と合計四人しか居らない街では極めて快適な生活を送ることが出来た。ここで集めた資料と独乙で集めた資料が日本に帰って来てから三省堂店から「若きロシア」となって出版されたのだが。

当時ロシアに対する一般的評価は鬼か蛇か何しろ鉄のカーテンで覆われて居る秘密国なのだから、俗に言うこわい者見たさの好奇心が一層かき立てられてた時代であって、ロシアの将来について諸説紛々で、或は遠からず再び革命が起ってボルシエビキ政権が倒されるだろうという観測がしきりであり、欧州連合国がシベリアへ亡命した白露系の仮り政府を応援し、日本はシベリアに出兵し尼港事件として多くの将兵を失ったバルチ

ザン（土民兵）による壊滅的敗北を喫した時代のあとでもあった。自分としてはボルシエビキが国民大衆の支持を受けず圧制政府であるならば遠からず反対派によってくつがえされる運命をたどるだろう。それがデアレクテーク（唯物弁証法）の理論であるからだ。スターリン政権がレーニンの後を継いで既に七年位経過して居り、今以てどうか安定を保って行けて居るのは国民の支持を得て居る証拠でないだろうか。その現実の姿を此の目で確めて見渡したいという希望が極めてさかんであった。主義が良かろうが悪かろうが結局国民的支持が得られるのかどうかによって良くも悪くもなるもので、局外者が自己のイデオロギーで共産主義を良いとし資本主義を悪いというような好き嫌いの判断をつけるべき筋合のものではないのだとの信念を持って居ったのだ。

統制を極度にきらう国民には共産主義が向かないだろうし、政治は他人任せで只、楽に食え苦勞なく生きて行き度い国民には共産主義は理想に近いだろう。それ位の違しか政治体制の違に対応する国民的意識の差異しかないものである。共産主義国にも資本主義国にも機械文明は同質の同程度の文化的機械として共通に採用されるものだ。それは経済効率という生産主義に支配されるからである。資本の論理は利潤を要求する。利潤のないところに再生産図式は画かれない。共産主義も資本主義も利潤発生の際の資本効率の原



理は同様に貫徹されるものだ。只、両制度の違は生じた利潤の分配形式が違うだけである。利潤を資本の側で多く処分するのが資本主義体制であり、利潤を労働者大衆に多く分配するのが共産主義であるに過ぎない。

こんな簡単な理論構造をめぐってイデオログ達は目の色を変えて争っている。国民の好みに任せそのいづれが民族の歴史的風土、伝統、権威の認め方の差異による民族の嗜好の問題に任せるのが正しい第三者的見解と理解して居た自分には、一度ロシア民族の共産主義体制への受け入れ方の実際の姿に接しなかったのであった。

独乙滞在中オデッサ駐在の友人の許に手紙をやってソ連入国を謀ったが、電報の行き違いで遂実現不可能になったこともあり、帰国のコースは常識である欧ー米ー日という経過をとらず、欧ーロー日の経路をとる計画を立てたのであった。

当時ソ連当局は外国人旅行者に対してはモスコーに二十四時間の滞在を許可。写真器は携行不許可、地図、ロシア語の書物の所持は禁止という、厳しいものだったから、同行の便を与えてくれた外交官が丁度帰朝というので連れとなり、極めて有利な旅を続けられたわけだった。

モスコーへ入って見ると警察官らしい服装の者が抜剣して十数名の犯人らしい者を腰



にひもで数珠つなぎにして歩かせ最後のデカらしい者がピストル片手に街を連行する有様を見て、背筋の寒くなるのを感じた。政治犯でもあろうか。スターリンの政權が民衆に対する弾圧統治のデモンストレーションと見た。血の肅正と称して彼等は処罰されて行くのであろう。一流ホテルに宿をとったのだが、便所には新聞紙が散乱してとても歐羅巴の旅館では見られぬ光景である。オペラを聴きに行った。多分ポリショイ劇場であつたらう。頗る立派な建物であつた。聴衆は全部カーキー色のルパーシカにハンテング帽の集団であつて、巴里や伯林で見たはなやかさは影をひそめている。西欧では幕あいはコリドール（廻廊）をゾロ／＼ときらびやかな盛装で、ある限りの寶石金属装身具に身づくろいをして一種のファッションコンクールを見る思いのするものだ。共産主義とは何んときたないものだろうかと感じた。道路は丸石ころをモザイク形に敷きつめた土をドロシケと称する二輪車の馬車がガタ／＼ゆれて走る。ロシア人も支那人も赤色を好む。赤は盛んなる色。焰の勢を表わすとして縁起の良さを喜ぶ風習がある。支那の上海あたりでもモスコウの街でも、原色の赤、それと反対色の青がやたらに街に塗りたくつて居て、而も建物は二階建の支那街そっくりの汚いまち並であつた。クレムリンの赤の広場にレーニン廟があり、門衛のところに竿竹みたいに兵隊が二人突つ立って居た。口

語のサウダーチ（兵隊）と竿竹と語呂がよく似合う。蠟人形然としたレーニンが静かにガラス箱の中で眠っていた。蠟人形と言えばポルトガルでも博物館に暗殺された皇帝が見世物になって僅かの見料で見られる。上体の腹の部分に塩漬けされた様に塩が粉の様に吹き出して居た。フランスの宮殿の庭が酒樽置場になって美味そうな葡萄酒が一杯入って居ったのを見たが、民衆を苦しめた皇帝の末路は斯くの如しという見せしめと思われる。がソ連ではレーニンは神様扱だ。

帝政時代セントピーターズブルグと呼ばれていたレニングラードの旅は急行で今日では八時間の夜行列車の道のりだが、当時もそんなものだったろう。汽車は国際急行コンパートメント式の快適なものだったと記憶している。此の街は西欧式のコンクリート建築が立ち並んで美しい街であった。此の街は海軍が十月革命を成功させた由緒のある町でネバ川に今も碇泊しているオーロラ号の砲撃によって帝政ロシアが崩壊したものだ。絵画館に展示されてある絵の風潮としては南欧に見る柔らかか、明るさの色調に引かえ、暗い力の強い面も労働者天国の国家だけに、工場内の労働風景、労働者が力一杯ハンマーを振りまわしているといった絵が人目を惹きつける。その中にひとときわ心を打つ作品としてはシベリア追放者が吹雪の中を櫂で出発する様な悲劇的な絵画はいかにも帝政時



代の暗らい面を表現したものとして今尚脳裏に強く焼きついている。

二十四時間の許可滞在が過ぎるので一旦モスコに戻り、急行国際列車で一路シベリアの旅を続けた。停車場には待合室の隅々に大きな袋に身体をもたせかけ、コンクリートの床に寝て発車時間を待ちわびる人々の群があちこちに見受けられる。一様に蔓で編んだ籠を持ちその中に直径一尺余り、厚さ五寸以上もあるうか、ドーナツ風に真中に孔のあいた大きなパンを入れてある。他にヤカン、焼鳥の丸裸のもの二、三羽入れて荷物を抱いて居るのが常識であった。列車は一等から四等迄あって一般民衆は上下二段に区切れてある雑居式列車の客が大方を占め、国際列車（ワゴン、リ寝台車の意味）には外国人が乗って居った様だ。汽車は今日でも同じ仕来りの様だが、何時出発するのか、どこで停るのか、皆目、合図がない。アナウンスもない。時間が来ればスーと出発し、時間が来ればスーと停車する。時折り大男の給仕がチャイイと云って紅茶を売りに来る以外車内で食堂車以外食物は売りに来ない。時は九月の中頃だったが、汽車は三時間でも五時間でも走りっぱなし、而もシベリア鉄道は単線で白樺の割木を炭車に山積しそれを燃やして走る。線路は一本道で両側にカラ松、白樺林が主で、密林の中を汽車道だけあけてあるという始末で沿線に一軒の民家も見えない。停車場に掘立小屋が一軒あり、近くに煉



瓦作りの湯沸場があり旅人はヤカンを持って行って湯を汲んで来る。たまには鶏の丸焼を売って居る駅もあったが街らしい街は一ヶ所もないところが停車場と称する所だ。遠く林の向うに街の姿が見えたところもあったが、地図もなし写真機はソ連国境で車掌に取り上げられ、いづれ満州国境へ行ったら返すと言って預書一つくれるでなし、ニキエボく（関係ないく）と来るから話にならぬ。ロシア人を知る一つの手がかりになることは気ながに無理せず、相手方の出方をよく見るということだろうと思う。シベリア鉄道の途中にウラル山脈がある。この山を越えるに一つのトンネルも造って居ないことだ。山というのは名ばかりで丘の様なものだ。汽車が小さな駅ともつかない場所に停つたら大勢の若者が荷物も持たず男女ワイく下車した。さてどこに街があるかと眺めてもそれらしいものが見えぬ。汽車は大抵停車すると三十分位平気で停つて居るのが先刻下車した連中は一人も戻つて来ない。発車した。それから一時間位も走つたと思つたら汽車が停つた。ところが驚いたことには、先刻下車した連中がワイく手に手に野花を持って乗り込んで来たのだ。よくく考えて見たら汽車が山裾をグルく廻つて走つて居る間に若者達は山を越えて近道を通つて汽車の到着を待つて居たのだ。一体に欧州特にスペイン国境のピレネー山脈を越えてフランスを通り、ドイツを抜けロシアに入る

道は一面の平野であることだ。而もウラル山も裾野をグル／＼廻って満州に入るとなる  
と一つもトンネルをくぐらぬことになるのだ。スイスからイタリーに入ると例のアルプ  
ス山脈がありトンネルを通る間中、大便一つ悠々やれる位の予猶があるのだが、欧州は  
そうはいかぬ。シベリヤの旅は明けても暮れても林の中の一本道をひた走りに走るだけ  
だった。十日間も走ってやっとチタに着いた時はほんとうに救われた気持になった。それ  
をジーツと小言一ついわず我慢している民族だから大したものだよ。日本人の気短かさ  
とトンネルの数とは正比例する。

序に参考道に民族心理を理解出来るエピソードを紹介する。世界第二次大戦の勃発し  
て日本が国連脱退した時の松岡洋右外相が、スターリンのところに出掛け日ソ不可侵条  
約を結んで、意気揚々とハルピンに引揚げて来たとなんに、物資の輸送契約条項の中に  
運賃単価の距離が倍になっていることに気づき、大に憤慨し、直ぐにモスコーに引返え  
して談判のやり直しをせねばならぬと地団駄ふんで怒ったが、いやしくも一國而も当時は世  
界の五大強国の一つである日本の外相がペテンにかかったとなつては國の威信に関わる  
というので遂に思い止まったという一条があった。世界通念としては運賃単価は距離に  
比例して通減されるというのが常識だ。それを此の条約では距離が遠くなればなる程巨



額の支払をせねばならぬ仕儀となった。土台此の辺から松岡などはなめられていたのだ。国家間の信義などはその場の御都合主義で国際条約ほど当てにならないことが終戦の時に判きりわかって樺太を失い千島を失ったではないか。今度の田中首相がソ連へ行つて平和条約を結ぶと振れ込んだものの、結局条文の中に継続審議という文字が抜けていたとか、これは故意に先方が抜かしたのだろうか、取り沙汰されたが土台ソ連の民族個々人にはくめない、人の良さがあるが事外交となつては民族性は一変する国柄だということ。先刻のトンネル談議の通り、日本歴史の人物に引きくらべたら三河の徳川家康式の掛け引きのうまさがある国民だということを承知すべきだ。ヤクトの石油チユメニの問題でも近頃景気循環の周期、戦争開始の周期率など一巻して論ずる学者が無くなつた様だが当時は世界平和が続くものと見て十年いやもつと早目に四、五年で投資分が回収出来る様な採算をせぬととんでもない結果になることを忘れてなるまい。

どう考えても不思議でたまらぬのは外交官は語学のベテランを以て任ずる御歴々の語学力の不足とは考えられず、大局を見落しているのではなからうか。専門家とは兎角そうしたものだよ。

以上は五十年前のソ連のことだが、昭和四十八年十月一日から長女とし子を同伴して



シルクロードの旅に出掛けた。羽田からモスコまで空路十時間一飛びの文明の旅とは随分と世界が小さくなったワイと思った。夜中ノボシビリスで給油のため一時間余滞留したが女共産党らしき者がドーアのとこに頑張っていて、一寸空港へ降りようとしたら、ニジエリヤ（いかん）とどなっていた。今度の旅でも空港停止場などでの撮影は禁止であり、空からの写真もとれず望遠鏡で見る事も遠慮したら良いとて、例の秘密主義が顔を出していた。モスコは淡雪がウツスラ建物を蔽っていた。所持金は日本円十万円限度で外貨は別扱である。見物はソ連ツーリスト仕立ての貸付バスを利用するのだが金髪の通訳付きの外日本女性一名本国から同行してくれた通訳によって万事順調に運んだ。三日モスコ滞在中豪華なホテルの十八階に宿泊させられ頗る快適であった。ソ連は節約が徹底して居て便所用紙が不足して居る様に聞いて行つたのだが、ロール半紙の四ツ切り位の大ききで腰が強く、日本のフンドシ式グル／＼引出用紙とは格段の遠で実用的だと思つた。食堂で使う紙も幾つにも小さく切つて、口を拭くのに一向不便がない。マッチは棒が細く短かく、一カペークの安価で木材の多いソ連にしては極めて合理的に出来て居た。帰国してから年末にかけて日本では石油危機に見まわれ石油ショックに全国津々浦々で大騒ぎになつたが、米国流の消費は美德だなどという商業資本に踊らされ

て無駄使いに慣れ切った高度成長の政府政策のしわよせを国民がモロにかぶった結果であるが、元来、政府は物が無くなってから節約令を出しても遅いし人の心がみじめになるばかりだ。物が沢山あるうちに始末をすると心がゆたかになるものである。無いくというから国民は一層あせって買あさる結果になる。ある時の米の飯無い時の芋の飯では腹に満腹感を与えない。

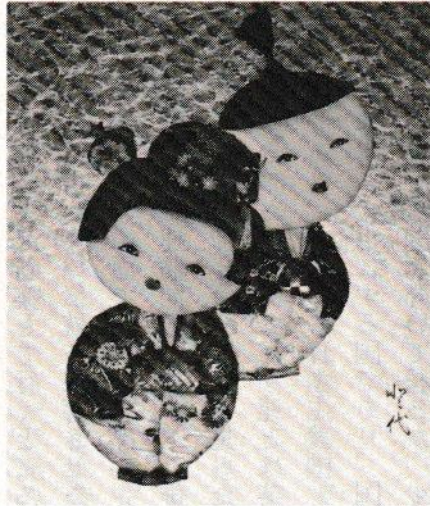
国土の広いことは良いことだ。何十キロはなれた野原の一角に白煙を吐く工場が一つ見える位のところでは公害は問題にならぬだろう。新興住宅群があちこち工事中だが、工事飯場は移動式でトラックで引張って歩く。その点は日本の工事飯場とはやり方が違う。レニングラードは第二次大戦に独乙軍に陸海双方から包囲され、六万人の餓死者を出したのだそうだが、よく頑張って敵を撃退したものだ。戦場の物語がああ有名なナポレオン戦争を思い出させる。近郊のエカテリナ二世女帝の広大な森の宮殿跡のあるプーシキン村の上空にはミグ戦闘機が沢山飛んでいた。此の森は巨大な榛の木一式の庭園で女帝は余程此の木が好みであったように思われる。宮殿は戦争でナチに爆破され、ヤンチャリー（琥珀）の間などすばらしい宝物があったそうだが掠奪されて今は修理工が入入して金ピカの外壁など塗り替え中であつた。プーシキンが城の門口にある学校で学ん



でいたということだ。いかにもロシア旧貴族のはなやかさが偲ばれる。女性的白、藍塗りの建物群がある。

新興住宅群と言えば日本の殺風景な合理一辺の建物集合を思い出させるが、ソ連の住宅夫々伝統を生かして建て替え、又新築して行くところに面白味もあり、深みも出て来る。レーニンの發議によつて古い良い伝統を保存させたというが、イデオロギーと新政治体制は旧式の破壊であつたが芸術面では伝統を保存させることに熱心であつた結果のたまものであつた。五十年前にソ連訪問の時はオペラ俳優で若作りして舞台に立つてコロラチュラソプラノ歌手などあとで年令を聞いて驚いたのだが六十幾才の老婆であり、プリマドンナ役も老人が多かつたのを見て、ソ連とは芸術家に停年のない国、国家が高い給料で保護して居る国であり、ここにも資本主義国とは行き方が違うのを感じたのだつた。ソ連は古いものを非常に大事にする国であり、国のほこりを持続けている国であり、二百余の多種國語が通用する国と聞いて居るが、少数民族は少数なりに夫々の民族のほこりをもつて生きて行っている。





押絵（とよ作）



白鳥といっしょ（尾袋沼にて）

両人の足跡

とよ

明治三十三年九月十七日生

滋賀県神崎郡南五ヶ荘村川並

塚本源三郎、はな二女

京都家政女学校卒

東京共立女子専門学校卒

大正十一年五月十二日結婚

利雄

明治二十三年十一月十六日生

札幌市南九条西十三丁目

阿部利平、あやめ二男

東大卒

住友合資会社東京販売店

倉敷労働科学研究所

大阪府地方技師

昭和二十四年三月

札幌北海学園事務局長

北海学園大学創設

昭和三十四年三月

北海道学芸大学教授

昭和三十八年

退官

昭和四十年三月

北海道産業学園創設理事長

北海道産業短期大学々々長

今日に至ル





記念撮影（昭和16年）

昭和四十九年四月二十日発行

著者 阿部利雄

印刷所 北大生協プリント部

札幌市北区北十二条西八丁目

TEL 711-2111

内線 二〇八四